

報 告

総合型地域スポーツクラブ 至誠館クラブにおける会員調査報告

○岡崎祐介*1 井川貴裕*1 鳥山 稔*1 福田一儀*1

キーワード：萩市、総合型地域スポーツクラブ、会員特性、大学拠点、地域貢献活動

1 はじめに

総合型地域スポーツクラブ(以下、総合型クラブ)は身近な地域でスポーツに親しむことができるスポーツクラブとして、文部省(現文部科学省)が平成7年度から育成を開始した。それぞれの地域においてスポーツの振興やスポーツを通じた地域づくりなどに向けた多様な活動を展開し、地域スポーツの担い手としての役割や地域コミュニティの核としての役割を果たすことが期待されている。スポーツ庁(2019)の調査結果によると令和元年度には創設準備中を含め全国で3,604クラブが育成されている。なお、クラブ育成率(全市区町村に対する総合型地域クラブが設置されている市区町村の割合)は80.5%であり、最近5年については概ね一定の値を示している。

山口県内の総合型クラブについては、令和2年7月時点で設立クラブが53クラブ、設立準備中クラブが6クラブあり、県内すべての市町にクラブがあるためクラブ育成率は100%である。

今回調査を実施した至誠館クラブ^{註1}は至誠館大学を拠点として活動する総合型クラブであり、2018年11月の設立から約2年が経過している。萩市の夢ある町づくりに貢献することを目的とした会員制のクラブである。会員数は85名(2020年10月末現在)で活動を行っている。萩市内で活動する総合型クラブはむつみスポーツ振興会と至誠館クラブの2クラブであり、山口県内において至誠館クラブと同様に大学を拠点に活動する総合型クラブには、下関市の東亜大学を拠点に活動しているコミュニティクラブ東亜がある。

このように近年では山口県に限らず全国的に総合型

クラブの設置数や設置率は増加しているものの、一方で総合型クラブに対する認知度や理解度が低いことや、運営・経営に関するマネジメントの問題も生じるようになってきている。

そこで本調査では、大学を拠点とした総合型クラブである至誠館クラブにおいて、会員の特性や満足度、活動成果について明らかにすることにより、今後のクラブ運営における基礎資料を得ることを目的とした。

2 研究方法

2-1 調査概要

本調査では、至誠館大学を拠点とした総合型クラブである至誠館クラブの会員を対象とした質問紙調査を実施した。この至誠館クラブは山口県、萩市、地域住民、大学が協働し、約1年半の準備期間を経て至誠館大学の萩文化スポーツセンターを拠点として2018年11月に設立されたクラブである。

調査時期は2020年2月～3月に、至誠館クラブの会員(「つばえるキッズ」は会員が幼児のため、その保護者)を対象に調査を行った。調査は会員が参加したプログラムの終了時に調査員が調査協力を依頼してその場で回答、もしくは自宅に持ち帰ってもらい後日回収とした集団面接法ならびに留置法による質問紙調査を実施した。調査用紙の配付数は50部、有効回答数は29部(有効回答率：58.0%)であった。

質問紙による調査内容は、國本ほか(2011)の先行研究から、①基本的属性、②活動志向、③クラブ満足度、④活動成果、⑤クラブ選定の5項目を中心に構成した。

*1 至誠館大学 ライフデザイン学部

2-2 分析方法

サンプル全体の傾向を把握するために単純集計を行った。クラブ満足度と活動成果については5段階評価尺度を用い、満足度や成果の高い順にそれぞれ5から1の得点を与えて数量化し平均点を算出した。

クラブ選定項目においては先行研究を参考に、至誠館クラブの特徴を考慮し15項目を設定した。“非常に重要である”から“まったく重要でない”までの4段階評定順にそれぞれ4から1の得点を与えて数量化し、平均点を算出した。

3 結果および考察

3-1 サンプルの属性

本調査におけるサンプルの属性は表1のとおりである。年齢は60歳代が最も多く30歳代や40歳代の回答者は概ねつばえるキッズの保護者であった。性別では

女性が約8割であった。このことから、中高年層の女性の参加が多い特徴があげられる。また、クラブへの入会目的は「健康・体力づくり(51.7%)」が最も多く、「運動能力の向上(41.3%)」、「知識の修得(34.5%)」も高い値を示しており、個人の健康や体力向上、知識の修得を意識しての入会が多いことがわかる。さらに「友人・仲間との交流(37.9%)」や「楽しみ・気晴らし(34.5%)」といった総合型クラブの趣旨の1つである交流に関する項目についても約4割の回答があった。会場となる至誠館大学までの交通手段については、会員の約9割が自家用車で移動している。所要時間についても20分以上かかる会員が約4割を占めていたことから、文部科学省が推奨している自転車や徒歩で無理なく通える範囲を考慮すると交通手段や大学周辺の地域住民の会員増加などについて課題があると言える。

プログラムの満足度については、89.6%の会員が満

表1 サンプルの属性

		n	%			n	%
年 齢	30歳代	7	24.1	会員期間	6か月未満	2	6.9
	40歳代	4	13.8		6か月以上1年未満	19	65.5
	50歳代	3	10.3		1年以上	8	27.6
	60歳代	9	31.0	参加プログラム	つばえるキッズ（保護者）	11	37.9
	70歳代	5	17.2		韓国語教室	5	17.2
	80歳代	1	3.4		シニアイングリッシュ	8	27.6
					トレーニング会員	8	27.6
性 別	男性	6	20.7	プログラム満足度	十分満足している	15	51.7
	女性	23	79.3		まあ満足している	11	37.9
大学までの交通手段	自家用車	26	89.7		あまり満足していない	2	6.9
	定期バス	1	3.4		全然満足していない	1	3.4
	徒歩	1	3.4	継続意欲	参加したい	19	65.5
	その他	1	3.4		まあ参加したい	3	10.3
	大学までの所要時間	10分圏内	10		34.5	わからない	5
20分圏内		7	24.1		あまり参加したくない	0	0
30分圏内		8	27.6	参加したくない	2	6.9	
30分以上		4	13.8	回答者	会員本人	18	62.1
入会目的	健康・体力づくり	15	51.7		保護者	11	37.9
	運動能力の向上	12	41.3				
	楽しみ・気晴らし	10	34.5				
	運動不足の解消	5	17.2				
	友人・仲間との交流	11	37.9				
	美容や肥満解消	1	3.4				
	知識の修得	10	34.5				
	その他	1	3.4				

※「入会目的」は複数回答のため、回答者数の対する項目ごとの数値

N=29

足していた。また、継続意欲については「参加したい」と「まあ参加したい」を合わせると75.8%の会員が今後もクラブ活動を望んでいることが明らかとなった。

3-2 クラブ満足度

表2のとおり、クラブの満足度については「プログラムの実施回数(4.54%)」、「会場の施設・設備(4.25%)」、「プログラムの時間帯(4.21%)」の順に高く、会員の生活時間帯などを考慮した設定が評価される結果となった。一方で、「広報活動(3.70%)」、「指導内容(3.89%)」、「プログラムの効果(3.96%)」については評価に低い傾向が表れた結果となった。この中で、「広報活動」については非会員への活動は行っているものの、会員へはクラブの活動状況やイベントの様子を周知することが十分にできていないことが要因にあると考えられる。クラブの満足度については概ね高い値を示したが、現状では必ずしも会員の要望に応えられていないといえる。

3-3 活動成果

表3のとおり、至誠館クラブへの加入により、その成果があがった項目で最も高い値を示したものは「ストレス解消や気晴らしができた(4.21%)」、次いで「語

学やスポーツへの関心が高まった(4.18%)」「生活が楽しくなった(4.14%)」の順であった。このことから、運動やスポーツ自体の効果よりも、それらを手段とした成果が向上していることが明らかとなった。また、「地域の活動に参加するようになった(3.11%)」、「家族との会話が増えた(3.39%)」、「教室やイベントに参加する機会が増えた(3.43%)」、「地域への関心が高まった(3.57%)」などの“地域に関する項目”においては先行研究と同様にその成果が低い値を示した。

以上のことから、至誠館クラブの会員は個人的な成果はあげている。しかしながら総合型クラブは地域の一体感や活力の醸成、地域の活性化などの役割が期待されていることから、現時点ではその役割を果たせているとは言えず、今後の課題としてあげられると言える。

3-4 クラブ選定項目

至誠館クラブの会員がスポーツクラブ等を選ぶ際に重要視する項目を「クラブ選定項目」として15項目設定し、選定する際の重要度(期待度)を“非常に重要である”から“まったく重要でない”までの4段階評価尺度にしてたずねた。回答にはそれぞれ4から1の得点を与えて数量化し平均点を算出したものが表4である。

表2 クラブ満足度

	平均値 (%)
1 スタッフ（指導者や担当者）の対応	4.07
2 プログラムの実施回数（頻度）	4.54
3 プログラムの時間帯	4.21
4 会場までの利便性（行きやすさ）	4.07
5 会場の施設・設備	4.25
6 プログラムの指導内容	3.89
7 プログラムの効果	3.96
8 会員との交流	4.14
9 プログラムに関する広報活動	3.70
10 クラブ運営全体の満足度	4.00
クラブ満足度全体（平均）	4.08

表 3 活動成果

	平均値 (%)	
1 生活が楽しくなった	4.14	
2 技能や記録が向上した（※会員の方のみ）	3.64	
3 人との交流が深まった	4.07	
4 学習時間や運動時間が増えた	3.96	
5 ストレス解消や気晴らしができた	4.21	
6 語学やスポーツへの関心が高まった	4.18	
7 新しい仲間や友達ができる	4.00	
8 地域への関心が高まった	3.57	
9 地域の活動に参加するようになった	3.11	
10 家族との会話が増えた	3.39	
11 語学やスポーツ活動がしやすくなった	3.71	
12 学習や運動する場所の確保がしやすくなった	3.64	
13 教室やイベントに参加する機会が増えた	3.43	
14 多くの学習やスポーツを行うようになった	3.71	
15 学習やスポーツがより楽しくなった	3.89	
活動成果全体（平均）	3.78	

表 4 クラブ選定項目

	平均値 (%)	
1 測定と評価	3.04	
2 最先端の情報	3.00	
3 指導者の質	3.52	
4 資格取得	2.37	
5 知識・技術の向上	3.26	
6 会員同士の交流の場	3.22	
7 友人・仲間・地域との交流	3.15	
8 運動不足の解消	3.26	
9 楽しみ・気晴らし	3.48	
10 健康・体づくり	3.15	
11 通いやすさ	3.37	
12 プログラムの時間帯	3.56	
13 利用料金	3.44	
14 プログラムの豊富さ	3.33	
15 施設や設備の充実	3.30	
クラブ選定項目（全体）	3.23	

その結果、最も高い値を示したのは「プログラムの気晴らし(3.48)」の順であった。このことから、至誠館
 時間帯(3.56)、次いで「指導者の質(3.52)」、「楽しみ・クラブの会員は、プログラムが行われる時間帯を最も

重要視しており、楽しさや気晴らしを求めて参加していることがわかる。また、指導者にもそのような指導を求めているということが推察される。

さらに、「利用料金(3.44%)」や「通いやすさ(3.37%)」が高い値を示した点は、中高年層が多い至誠館クラブ会員の特徴が表れているといえる。

一方で「資格取得(2.37%)」、「最先端の情報(3.00%)」「測定と評価(3.04%)」、「友人・仲間・地域との交流(3.15%)」、「健康・体力づくり(3.15%)」については選定項目全体の平均点(3.23%)よりも低い値を示す結果となった。特に資格取得においては、至誠館クラブの会員には特に重要視されていないということが考えられる。

4 まとめ

本調査では、至誠館大学を拠点とした総合型クラブである至誠館クラブに着目し、会員の特性や満足度、活動成果、クラブの選定要因について明らかにすることにより、今後の至誠館クラブの運営における基礎資料を得ることを目的に分析を進めてきた。以下にその要点をまとめた。

1) 本クラブの会員特性は、中高年層の女性が多く健康志向であった。また、入会の目的から「健康・体力づくり」や「運動能力向上」「知識の修得」を意識してクラブに入会している者が多い。

2) クラブに対する満足度においては全体的に高い値を示した。「プログラムの時間帯」において会員の生活時間帯を考慮したプログラム設定に評価が高かった。一方、広報活動には改善の余地がみられ、非会員に対する新規会員獲得のための広報に限らず、正規会員へのクラブ活動の周知やイベントの情報提供などを積極的に実施していく必要がある。

3) 活動成果では運動やスポーツ自体の効果よりもそれを介した成果が向上していることが明らかとなった。

4) クラブを選定する際には、会員の日常生活の中で無理なく楽しく参加できる時間帯やプログラム内容、料金設定、移動手段(時間)などの要因が最も重要視されていた。

以上のことから、至誠館クラブの活動に対して会員は一定の評価をしている。継続意欲が高いことからそのことがわかる。しかしながら、総合型クラブの特徴である、“自立・自律”や“地域の組織”ということを考慮すれば、今後はクラブ会員数をはじめとしたクラブに関わる地域住民の増加はもちろん、それに伴いプログラム数の増加も検討していく必要がある。さらに活動拠点である大学側だけでなく、地域住民によるクラブ運営に対する積極的な関与も重要となってくる。

そのためには、『クラブ活動について広く地域住民に周知できるような広報活動』や『地域の一体感を生むような会員同士が交流できる仕組みづくり』などが今後の運営における課題としてあげられる。

【註】

註1 2019年度における至誠館クラブのプログラムは、①年中、年長の幼児を対象とした運動教室「つばえるキッズ」、②小学生を対象とした英会話教室「キッズイングリッシュ」、③概ね60歳以上を対象とした「シニアイングリッシュ」、④成人の方を対象とした「韓国語教室」、⑤月、水、金曜日に体育館のトレーニングルームを利用できる「トレーニング会員」の5つのプログラムを実施した。そのほか不定期の開催でアーチェリーなどの体験会や萩市内の各団体と連携した取り組みを行った。

【参考文献】

- 1) 池田孝博(2010)「大学を拠点とした総合型地域スポーツクラブの運営に関する諸問題」『福岡県立大学人間社会学部紀要』19 (1), 1-8
- 2) 得本啓次(2016)「大学を拠点とした総合型地域スポーツ

クラブの持続性に関する研究～コミュニティクラブ
東亜の実例研究～』『東亜大学紀要』23, 17-28

- 3)炭谷将史(2014)「大学を核とした地域密着型クラブの意義と課題～大学側の視座からの考察～」『聖泉論叢』21, 25-34
- 4)永谷稔・築瀬歩(2006)「大学を拠点とした総合型地域スポーツクラブの設立についての研究」『北海道浅井学園大学短期大学部研究紀要』44, 13-21
- 5)スポーツ庁(2019)「令和元年度総合型地域スポーツクラブ育成状況調査」
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop05/list/detail/1412250_00001.htm(アクセス日 2020.11.4)
- 6)山口県体育協会「総合型地域スポーツクラブ」
<http://yamaguchi-taikyo.jp/sougougata>(アクセス日 2020.11.4)
- 7)國本明德ほか(2011)「大学を拠点とする総合型地域スポーツクラブの会員に関する一考察ーいきいき大東スポーツクラブのケーススタディー」『大阪産業大学人間環境論集』11, 37-52